

段ボール箱を使った生ごみ堆肥化のQ & A集

Q1 どこに設置したらいいの？

A 風通しがよく雨に濡れない場所に置いてください。気温は15℃以上になる場所が理想的です。

Q2 台は必要なの？

A 段ボールを直接地面に置くと、底部分の通気性が悪くなり、生ごみが分解する際に発生する水分の蒸発が妨げられ、カビの発生や段ボール箱を痛める原因となります。また、壁から5センチ以上離しておく通気性がさらに上がります。

Q3 臭いはするの？

A 土や腐葉土のような臭いはあります。うまく管理ができていれば気にならない程度の臭いです。

Q4 臭いがするときは？

A 1.ごみの投入を控え、よくかき混ぜる。
2.お茶やコーヒーかす、みかんの皮やミントなどのハーブ類を入れる。
※生ごみを入れる量が多すぎたり、かくはんが不十分だと臭いのもとになります。

Q5 入れてはいけないものは？

A 1.微生物が分解できないもの（貝殻、ビニール、プラスチック類、ゴム、割りばしなど）
2.微生物によくないもの（塩分を多く含むもの、洗剤や漂白剤、たばこの吸殻など）
3.分解しにくいもの（硬い皮や種、トウキビの芯、卵の殻、肉の骨、柑橘類など）
※細かくすれば、分解が早まるものもあります。

Q6 生ごみの分解する温度は？（基材とは、ピートモス、もみ殻くん炭のことです。）

A 基材の温度が外気温より5～10℃程高ければ微生物は活動しています。

Q7 うまく温度が上がらないときは？

A 1.基材が乾いているときは、水を入れて湿らせる。
2.米ぬかやとぎ汁、きな粉、砂糖、廃食用油などを生ごみと一緒に入れる。
3.寒い時期は、古毛布などで保温する。
4.お湯を入れたペットボトルを基材に挿す。

Q8 真ん中に生ごみを投入する理由は何ですか？

A 水分を多く含んだ生ごみが段ボール箱の内側に触れて、段ボール箱がふやけるのを防ぐためです。投入時に、周囲の基材と少しだけ混ぜ合わせた後、上からしっかり周囲の基材をかぶせておくと、分解が早くなります。

Q9 生ごみを入れ続けると段ボールが満杯になりませんか？

A 生ごみは分解されると体積が大きく減りますので、段ボールが満杯になることはありません。

Q10 虫やカビが発生したときは？

- A
- 1.廃食用油を200ccくらい入れよくかき混ぜる。
 - 2.箱の周囲を古毛布などで保温して温度を上げる。
 - 3.市販の無臭タイプの防虫剤を段ボール内に設置する方法もあります。

Q11 白いカビが発生したのですが・・・大丈夫？

A 好気性菌で無害なので、問題ありません。そのまま、混ぜて使用してください。

Q12 ダニが発生しました・・・大丈夫？

A ダニが発生した場合は、直ぐに止めて、最初からやり直す必要があります。通常の管理をしていれば、ダニは発生しません。

※分解が弱く、温度が低い状態が続いた場合、ごく稀にダニが発生することもあります。

Q13 数日間かくはんができないのですが・・・大丈夫？

A 問題ありません。かくはんができなくなる3日前には生ごみの投入を止め、その後はかくはんのみ行ってください。

Q14 どのくらいの期間、生ごみを入れたほうがいいですか？

A 2～3か月です。生ごみの分解が遅くなった（全体が黒っぽくなり、塊ができてきます）と思ったら、生ごみの投入をやめてください。

Q15 生ごみの投入をやめてから、すぐに堆肥として使用できますか？

A 投入をやめてから、1か月ねかせた後に堆肥として利用できます。

★段ボール使った生ごみ堆肥化についてお困りの場合は、お気軽にお問合せください。

お問合せ先

千歳市環境センター廃棄物対策課資源循環推進係

〒066-0012 千歳市美々758 番地の54

TEL 0123-23-2110

FAX 0123-23-2492

e-mail haikibutsutaisaku@city.chitose.lg.jp